

## 人工哺乳・哺育を上手に行うための工夫

### 1. 新生子牛の下痢の抑止と対処

子牛の下痢に対しては日ごろからの体温測定や、代用乳給与の際に耳を触ったり目を観察するなどして異常の早期発見に努めることが不可欠である。劇症の下痢が発生した時点では既に手遅れである、との感度を持つことがとにかく大事である。

代用乳を給与して1～2日目は消化の状態が不安定であり、軟便・下痢便が発生しやすい状態にある。初乳から常乳に切り替えた場合でも成分の変動から消化の状態が不安定になり軟便・下痢便を起こすことは珍しくない。これらの場合には一般的に生菌剤が推奨されているが、最も安価でしかも活性度の高い乳酸菌源は生ヨーグルトである。

代用乳「みるくん」を給与する際に生ヨーグルトを約20グラム程度添加して与えるだけで軟便・下痢便の発生を驚くほど効果的に抑えることが出来る。10日間ほど続ければ消化の状態は安定するのでヨーグルトの給与を止めて差し支えない。

一方、カーフハッチやカーフケージの衛生対策も重要な下痢予防のポイントである。床面がコンクリートである場合、最初に石灰を撒布しその上に防寒対策として代用乳の空き袋を敷き、その上にオガ粉と敷き料としてのストローなどを重ねると良好な状態が確保できる。撒布した石灰にて蛆虫の発生を抑えることも可能となり、また敷き料は汚れた部分のみを交換すれば良い。

### 2. 風邪・肺炎の予防

下痢と並んで怖い疾病が風邪・肺炎である。日ごろの体温測定や観察が重要であることには変わりがない。しかし一旦風邪をひいてしまったならば初期の症状のうちに回復させることに心がけることである。通常の治療に加えて「生姜療法」も効果的である。生生姜をおろし金などでおろし、さらにガーゼなどで濾過した濾液にオリゴ糖を少量混ぜて注射筒などで10ml程度はかり取り、当該牛の口中に流し込むことを朝晩に数日試みると意外と効果的である場合が多い。また、バイパスビタミンCの給与も免疫力を増強させる点で効果的である。

なお、床の管理も重要であり、コンクリートに石灰を撒布しその上にオガ粉とさらに乳酸菌や納豆菌剤を撒布しておくことで有害な細菌の増殖を抑制することが出来て有効な疾病対策となる。

### 3. 代用乳「みるくん」の上手な利用法

標準的な給与体系として代用乳「みるくん」の給与はおおよそ35日齢程度、または人工乳の1日当たりの摂取量が700グラムを超えるころに打ち切ることとされている。この方がその後の人工乳の摂取量を増加させる効果が高いからである。しかしながら環境条件が良くない（寒さや暑さが著しく厳しい場合など）場合には代用乳「みるくん」の給与を必ずしも規定どおりに打ち切る必要はなく、1日量として朝晩各300グラム宛を3ヶ月齢（体重のめやすとして130から140kg）まで給与する方が子牛も疾病に罹りにくくむしろ健康であり、人工乳の摂取も順調に増加する（3ヶ月齢時の人工乳の摂取量は3kg超となる。）その後の発育は極めて順調で10ヶ月齢時の体重が300kg超は珍しくない。